

カリキュラム・マネジメントによるICTの有効活用

佐藤俊幸（熊本市立城東小学校）

概要：ICTの有効活用を図るためには情報活用能力の育成をめざしたカリキュラム・マネジメントが重要である。特に、小学校の場合、縦の系統性を踏まえた実践からスタートすることが有効である。

キーワード：情報活用能力，カリキュラム・マネジメント，縦の系統性

1 はじめに

GIGA スクール構想の推進により一人一台のタブレット端末導入が急速に進んでいる。インターネット環境や無線LANの整備も順次図られていくであろう。

しかし、単に環境が整備されただけで授業が充実し、確かな学力保障につながるわけではない。どこで、どう活用すれば授業改善につながるのか、子どもの学びが主体的になっていくのか等、有効活用の在り方を工夫していくことが必要である。

タブレット端末は、あくまで学習の道具であり、それ自体に活用の系統があるわけではない。そのため、めざす力の育成に向けたカリキュラムが重要であり、それに応じた活用方法を検討することで有効活用につながっていく。

そこで、本稿では、情報活用能力の育成をめざしたカリキュラム・マネジメントの視点からICTの有効活用について述べていく。

2 研究の方法

(1) 調査対象および調査時期

国語科を中核とした情報活用能力の育成をめざすカリキュラム・マネジメントを対象とし、その中でICTでの活用の有効性を探る。

このカリキュラム・マネジメントは3年計画（令和元年から令和3年）で進めているが、ここでは令和元年度の実践を取り上げる。

(2) 分析方法

カリキュラムの作成・実践・改善の具体的な

手順を明らかにし、その有効性を教職員の意識変化から考察する。

3 結果

情報活用能力の育成に向け、国語科に焦点化したカリキュラムを作成し、その実践・改善を図ってきた。これにより系統を強く意識して実践する教職員の割合（83%）が多くなった。また、カリキュラム・マネジメントの有効性（学びの質的向上につながることを認識する教職員の割合（83%）も増えた。

このような系統意識がタブレット端末の活用へもつながった。どの単元で、どのような活用が有効であったかという学習履歴を作成し、次年度へ活かす取組が生まれた。

4 考察

(1) 縦軸を意図したカリキュラム

学習指導要領には、カリキュラム・マネジメントの具体的なポイントとして「必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」が指摘されている。

確かに、全国の先進校の実践も、国語とか、社会とか一つの教科にとどまらず、教科等横断的な実践やカリキュラムづくりが多い。

しかし、小学校の場合、中学校とは異なり教科担任制ではない。すべての教科を担当が一人で請け負っている。そのため1年から6年までの系

統に対する意識は弱い。これが組織的な実践につながらない一つの原因である。

そこで、本校においてはあえて国語科に焦点を当て、情報活用能力にかかわる単元の縦の系統を明らかにすることからスタートした。教科書（東京書籍）において、情報活用にかかわる単元がどのように配列されているのかを整理したのである。下の図1は、「読む」領域において情報活用能力の育成にかかる単元の系統を示している。

(2) 系統を意識した授業実践

教科書をもとに1年から6年までの系統を把握することは重要である。しかし、単に系統図を作成しただけでは組織的な実践につながらない。教職員一人一人が系統を強く意識していくための工夫が必要である。

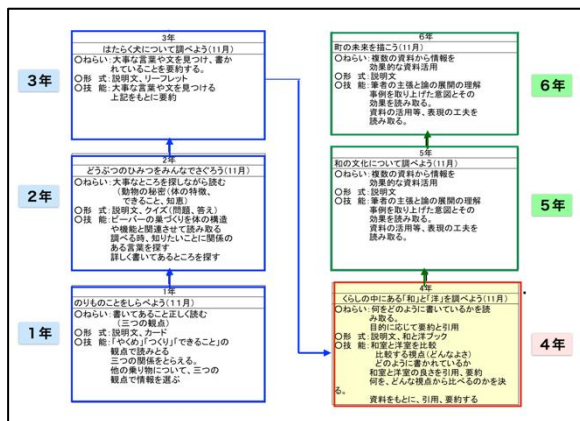


図1 教科書の系統（令和元年度版）

そこで、研究授業（授業研究会）ごとに、1年から6年までの系統を意識する場を設けた。例えば、4年生の研究授業の時、この単元につながるまで1年から3年までどのような指導がなされているのか、各学年の担任が1分程度で説明するのである。また、ここでの指導が5年、6年にどうつながっているのか、各担任が説明する。

こうすることで、常に、1年から6年までの系統を考えるようになる。どの学年の授業でも、

自分の学年がどうつながっているのかを意識するようになってきたのである。

また、前述の研究会においては、タブレット端末の有効活用についても検討がなされる。当然、ここまでにどのような活用経験を積み重ねておくべきか、これからどのような活用が可能かが論議され、学習履歴作成の必要性につながっていった。

5 結論

情報活用能力の育成をめざし、国語科に焦点化したカリキュラム・マネジメントを実践してきたことは、二つの点で有効であった。一つは、シンプルで分かりやすく無理なく実践ができることである。もう一つは、1年から6年までの系統性を取り上げたことで組織的な実践につながりやすかったということである。

6 今後の課題

ここで取り上げたカリキュラム・マネジメントは下に示した3年計画の1年次である。

- 1 教科書の系統を意識して実践
- 2 国語科（情報活用）を総合的な学習と関連づける。
- 3 国語科（情報活用）を他教科と関連づける。

国語科から他教科へ、縦軸から横軸へとカリキュラムをどう広げ、実践していくかが今後の課題である。

参考文献

学習指導要領（総則）